

活 動 記 録 書

開催日： 令和7年5月1日(木) 天候 晴	開催テーマ： 紙幣肖像人物の鎌倉の足跡と寸心荘見学
開催場所：鎌倉市	記入者：横山美智男
参加人数：会 員 31 名 ビジター 3 名 計 34 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 等）： コース：極楽寺駅(集合)～針磨橋～相馬黒光別荘地碑～新渡戸稲造別荘跡～津田梅子別荘跡～音無橋～有島生馬別荘跡～寸心荘（西田幾多郎博士記念館）～稲村ガ崎公園（解散） 今回は紙幣に登場する人物をはじめとして、稲村ケ崎ゆかりの人物の足跡を訪ねる企画で、更に西田幾多郎記念館を見学した。また寺社を一つも訪ねないという、会にとってはユニークな探訪でした。 集合は極楽寺駅、ドラマによく登場する駅でもある。昔なら「俺たちの朝」、現在放送中の月9ドラマ「最後から二番目の恋」など。挨拶のあと江ノ電線に沿って稲村ケ崎方面に出発。10分ほど歩くと鎌倉十橋の一つ針磨橋（我入道橋）がある。昔、この付近に針を磨く老婆が住んでいたとか、極楽寺の塔頭に住んでいた「我入道」という僧侶が針を磨いていたとか言われている。 左の坂道を上ると道が切れるところに「黒光庵碑」が残されている。ここは相馬黒光の別荘地があった山の下で、黒光は夫の相馬愛蔵とともに新宿中村屋の創業者として知られている。 江ノ電線沿いの道に戻り稲村ケ崎駅を超えると新渡戸稲造別荘跡地（現在は聖路加国際大学鎌倉セミナーハウス「アリスの家」）がある。新渡戸稲造（1862～1933）（旧5千円札）は国際連盟事務次官を務め、著書「武士道」は流暢な英文で書かれ、日本人の精神や道徳観を広く世界に紹介した。 傍らの音無橋から山の方を見上げた茶色の四角い建物が、津田梅子別荘跡である。津田梅子（1864～1929）（新5千円札）は明治4年（1871）、岩倉具視使節団の一員として6歳でアメリカへ渡り、明治15年に17歳で帰国。華族女学校の教師となるが、明治22年に再度アメリカ留学。27歳で帰国し、女子高等教育の実現を志す。明治33年、女性の地位向上を目指して女子英学塾（現・津田塾大学）を創立し、後に「日本女子高等教育の先駆者」と称される。 音無橋を渡ると間もなく有島生馬別荘跡地（現在は老人ホーム「碧邸」）に着く。有島生馬（1882～1974）は有島三兄弟の一人、画家・作家として知られる。大正10年（1921）に空き家になっていた洋館を気に入り購入、「松の屋敷」と呼ばれた。昭和49年（1974）の没年まで約50年余りをここで過ごした。建物は現在、長野県の犀川のダム湖畔に移築されている。 更に進み右の坂道を上り「寸心荘（西田幾多郎博士記念館）」に到着。西田幾多郎（1870～1945）は大正から昭和にかけての哲学者。東洋と西洋の哲学を融合させ、「西田哲学」と呼ばれる哲学思想を確立。日本人初の哲学書「善の研究」（1911）は、今も哲学の必読書として親しまれている。「寸心」とは、自分の気持ちをへりくだってという言葉で西田はこの言葉を好んだ。現在、寸心荘は「学習院西田幾多郎博士記念館」と呼称し教育研究の場として利用されている。管理をしている先生に室内に展示された遺品や、ゆかりの品々を丁寧にご説明いただいた。 最後は稲村ガ崎公園へ、岬の頂上に続く石段の手前に「西田幾多郎歌碑」がある。寸心荘にはこの歌碑の拓本があった。上りつめたところに、北里柴三郎（1853～1931）（新千円札）の師、「コッホ博士の記念碑」がある。北里柴三郎はコッホに学び、後にジフテリア血清療法を発見するなど世界的な細菌学者になった。明治41年（1908）にコッホが来日し極楽寺を訪れた時の記念碑で、コッホの結核菌発見100年を機に昭和58年（1983）にここに移された。西の方を望むとゆるい弧を描いた七里ヶ浜や江ノ島が見渡された。公園内で解散し帰途につく。	
参加者の状況・意見など 前月とは打って違って好天に恵まれた。参加者34人は過去最大クラス。連休中だがコース途中の混雑などなく気持ちよく歩けた。寺社を訪ねない探訪もまた新鮮だった。	
次回の予定： ※熱中症警戒アラート発令時は短縮実施、同重大警報アラート発令時は中止。 ・令和7年6月5日(木)10時 JR衣笠駅 テーマ「日蓮上人ゆかりの大明寺と衣笠・平作の社寺を訪ねる」	